

# 令和6年度 自己評価表

鳥取城北高等学校

教育目標	《建学の精神》
	質実剛毅の校訓を基底に、知・徳・体の調和と統一のとれた教育活動を展開し、明朗闊達にして進取の気象に富んだ人材の育成をめざす
	○社会の変化に柔軟に対応し、生きる力と豊かな心を育む教育
	○互いの立場を尊重し、生徒・保護者・教師がともに幸せになれる教育

今年度の重点目標	『教育理念の確実な取り組み』
	1, 「5J」の浸透と具現化（①自主 ②自律 ③自覚 ④実践 ⑤自治）
	2, 「鳥取城北生5つの誓い」励行 ①さわやかな挨拶をします ②礼儀正しい服装や言葉遣いをします ③人を大切にし自分を大切にします ④学ぶ姿勢を大切にします ⑤自ら考え責任ある行動をします
	3, 目指す教師像に関連し、積極的な授業改善を行う。 4, 目指す学校像に関連し、しっかりとした進路保障を行う。

年 度 当 初					評価			
評価項目	評価の具体項目		現状（R5年度実績）	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	次期に向けての改善点等
学力強化	1-③ 1-④ 2-④ 3	生徒の基礎学力の向上と、中間層の学力の向上を図る。	学習時間調査結果（1日の平均） 1年生：113分→125分、2年生：115分→141分 3年生：129分→133分 到達度テスト正答率 研志（1年：55.6% 2年：32.1% 3年：30.5%） スポ科（1年：44.2% 2年：45.4% 3年：36.7%） 生徒アンケート 主体的に授業に取り組めたと回答した生徒が全体の94.0%と高く、日々の学習時間確保が伸びてきている。	・スタディサプリ到達度テスト正答率50%達成 ・年度当初と比較して、家庭学習時間が増加している	・スタディサプリの活用およびテスト結果に基づく苦手克服を実施する。 ・課題配信、定期考査範囲への設定、長期休業中の課題として活用する。 ・実用英語技能検定の取得を目指し、Monoxerを活用することで学習時間の増加を促す。 ・定期的に学習時間調査を実施し、学習時間を把握する。 ・プラスアルファや放課後の時間を利用して学習習慣をつける。	学習時間調査結果（1日の平均） 1年生：125分→130分、2年生：141分→145分 3年生：133分→140分 到達度テスト正答率 研志（1年：55.6% 2年：32.1% 3年：30.5%） スポ科（1年：44.2% 2年：45.4% 3年：36.7%）	B	各学年ともに、学習時間が伸びてきている。さらなる充実が必要となる。 Chromebookの使用用途の明確化や活用方法なども検討していく必要がある。
	1-③ 1-④ 2-④ 4	生徒の進学意識と学力を高め、進路希望を実現させる。	3年生:現浪合計国公立大学29名合格 うち、鳥取大学11名合格 難関私大11名合格 *関関同立、GMARCH、早慶上理+ICU 2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上43名 (昨年度1年生1月46名) 1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上33名	3年生:現浪合計国公立大学50名以上合格 うち、鳥取大学30名以上合格 難関私大10名合格 *関関同立、GMARCH、早慶上理+ICU 2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上35名 (昨年度1年生1月33名) 1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上30名	・教科指導力向上のための研修を促進する。 ・進路検討会および成果の出た取り組みの共有会を実施する。 ・鳥取大学及び公立鳥取環境大学との連携を積極的に行い、地元大学への進学意識を高める。 ・進路面談を積極的に行う。 ・2年生合宿・3年生合宿、栄光塾合宿を実施する。 ・外部講師を招いた講演会及び授業を実践する。 ・実用英語技能検定の対策をし上位級取得を促す。	3年生:現浪合計国公立大学46名合格 うち、鳥取大学17名合格 難関私大延べ19名合格 2年生:1月進研模試国数英総合SS50以上22名 1年生:1月進研模試国数英総合SS50以上21名	B	・進路LHRの充実 ・総合的な探求の時間の充実 ・講演会やワークショップ等の実施 ・教科指導力の強化 ・教員研修の実施
就職指導	1-③ 1-④ 2-④ 4	全学年でキャリア教育を推進し、早期の職業観、就労意識を構築し、第1志望内定率を上げる	・内定率100%達成(3月中旬) ・第1志望内定率91.4% [35名中32名内定] ・公務員合格率70.0% [10名中7名合格] ・自己縁故就職6名 ・その他計画あり(資格取得、プロ選手)6名	「内定率100%」を早期に実現(1月中旬まで) 第1志望内定率80%以上 (就職希望者： 名) 公務員試験合格率70%以上	・ハローワーク等外部の機関との連携を強化。 ・インターンシップ・企業説明会・企業見学・アルバイト・様々な職種の講話・体験学習などの実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・公務員模試・就職模試等。 ・公務員対策サポート講座	・内定率100%達成 ・第1志望内定率93.3% [30名中28名内定] ・公務員合格率75.0% [4名中3名合格] ・自己縁故就職7名 ・その他計画あり(資格取得、プロ選手)10名	A	・ハローワークとの連携を強化。 ・インターンシップ・企業説明会など様々な職種の講話の実施、参加。 ・面接練習、合同面接会の実施。 ・公務員模試・就職模試等。 ・将来を見据えた進路指導。
	1-① 1-② 1-③ 2-② 2-⑤	生徒の人間性や社会性を高め、主体的に生活習慣を整える力を養い、規範意識を持たせる。	アンケート項目の服装頭髪を正すことや、遅刻しないように時間を守ったり、校則や交通安全ルールを守って学校生活を送ることができている割合が「90%以上」とポジティブの回答が大半でほとんどの生徒は規範意識を持ちや基本的な生活習慣は確立された。 また、ほとんどの生徒が不安のない学校生活を送れた。	鳥取城北高校の5Jと5つの誓いを実践し、日常の中で、規範意識を持ちながら、自らの姿を正しくつくりあげることができる。 校則や交通、通学マナーを守ることができ、基本的な生活習慣を確立し充実した毎日を送ることが出来た生徒90%。	・身だしなみチェックや頭髪服装検査を活用しながら、日々指導の積み重ねを大切ににする。 ・講習会の開催など外部機関と連携し強化を図る。 ・朝指導を通して、正しい交通マナーや通学マナーの浸透を目指す。(ヘルメット着用など) ・違反者への段階的指導を徹底しておこなう。必要に応じて連絡をおこなうなど、家庭との連携を密にする。 ・生徒の良い行動を見逃さず、小さな変化に気付き声をかける。 ・学校外の巡回強化(マナー、モラル改善)	昨年度と同様に、頭髪服装や遅刻、交通安全ルールに関するアンケート項目から、生徒が継続して校則や交通、通学マナーを守る意識を持ち、基本的な生活習慣を確立した日常を送る事が出来ている割合が「90%以上」とポジティブな回答が大半だった。 また、多くの生徒が主体的に行動し、充実した学校生活を送ることができた。	A	高校卒業後の未来を見据えて、社会で活かせる道徳心、倫理観を育む。また、生活に欠かさないSNSやスマートフォンの正しい活用方法を学び、繋がりや学びを深めるツールにしていく。 一部の生徒による身だしなみの乱れに対して早期指導の重点強化。 「地域から愛される城北生」を目指す。そして、「命を守る」指導の徹底。
生徒会	1-③ 1-④ 1-⑤ 2-① 2-②	生徒主体の生徒会活動を活発にさせて、生徒の愛校心を育くむ。	アンケートより、生徒会活動参加へのポジティブ回答が73%と前回アンケートより2.7%増えた。目標としていた75%にあと少し届かなかったが、一昨年度、昨年度と年々上昇している。 生徒会執行部が中心となり、毎日の放送やあいさつ運動に力を入れたことで、全校の生徒会参加意識が高まったのではないかと考える。	生徒会活動（学級役員）への参加意識が高まったとあてはまる・だいたいあてはまると感じた生徒 75% 生徒の愛校心が育まれる。	・生徒会執行部会を毎週実施する。 ・校内放送・掲示板を活用し、生徒会活動のPRや啓発を継続的に行う。 ・分掌と連携し、生徒の愛校心を育むような取り組みをする。 ・各クラスの学級役員に働きかける。 ・新たな良い風土をつくような取り組みを立案する。	アンケートにより、生徒会活動参加へのポジティブ回答が76.4%だった。昨年は75%にあと少しという状況だったが、年々上昇している。 生徒会執行部からの情報発信方法をホワイトボードや放送など様々な形でおこなったことや、校則の見直しによって関心が高まったのではないかと考える。	A	・生徒全体の意見を吸い上げ、分掌と連携し、生徒の愛校心を育むような取り組みをする。 ・各クラスの学級役員に働きかける。 ・新たな良い風土をつくような取り組みを立案する。
	1-② 1-③ 2-③ 2-⑤	人権教育LHRの充実を図り生徒の人権意識を高める。	アンケートの全項目が前回のアンケートより上回った。2学期の学校公開授業を含む3回の人権LHRの充実の結果だと判断できる。特に3年生は人権LHRへの参加の項目が95.8%と上昇し、最終学年として人権問題を自分のことと捉えて学習している様子がうかがえる。	生徒の実態に即した人権学習が展開され、生徒の人権意識が高まっている。	・人権教育LHRを充実させると共に、日常のあらゆる場面において生徒の人権に対する意識を高める。 ・クラスの実態に即した目標設定をする。 ・各種研修会や交流会などの参加を促す。	「人権問題について、自分の考えを深めることができた。」のアンケート項目に対して「あてはまる」または「だいたいあてはまる」と回答した生徒の割合が、前回値94.3%から今回値96.3%へと4%上昇しており、人権LHRの成果が見られた。	A	保健教育部と連携して人権にかかわる講演会を全学年で実施したほか、学習計画の策定を実施し、振り返りを行う形にしたことで各回での人権LHRの充実を図ることができた。
ICT推進	3 4	ICTを活用した教育活動を推進するため、生徒教員ともにICTスキルを高める。	アンケートで、平均が3.3点 (A：4点、B：3点、C：2点、D：1点)	Google ClassroomをはじめとしたGoogle Workspace for EducationやMonoxerなどのアプリを、授業と家庭学習において活用できるようになっている。	・ICTに関連する研修案内を促すし、スキルアップをはかる。教科や教員間で共有し、教科向上をはかる。 ・ICT活用をテーマとして研究授業を各教科で実施する。	アンケートで、平均が3.1点 (A：4点、B：3点、C：2点、D：1点)	B	ICTの具体的な使用場面を教科主任会・教科会で検討し、教員間で教え合いをしながらスキルを高められるような組織作りを行う。 校内外での研修の推奨や、さまざまなアプリの活用結果報告など、ICTに関する情報発信をさらにしていきたい。
	3 4	生徒を伸ばすために教員の授業スキルをさらに高める。	アンケートで、平均が3.3点 (A：4点、B：3点、C：2点、D：1点)	教材研究や指導法研究を常に意識し、年度当初に比べて自らの教科指導力が向上したと実感できている。	週に1回の教科主任会議・教科会の実施。 教科主任を中心に校内外の研修に参加し教科向上に努める。そのスキルを教科で共有し、さらなるスキルアップをはかる。 研究授業、授業見学を通して、互いに研鑽し合う。	アンケートで、平均が3.4点 (A：4点、B：3点、C：2点、D：1点)	B	教科主任会・教科会を軸にして、研究授業や授業参観の機会を利用して授業スキルアップに努める。 各種研修を積極的に利用して、研鑽する。